



新橋小学校

学校だより

令和2年1月31日
令和元年度 第10号

自然に身に着ける

副校長 遠山 満

記録的な暖冬と言われており、例年より暖かい日が続いています。日の出時間も少しずつ早くなり、本格的な春が近づいていると感じます。心配されたインフルエンザも、年が明けてからは落ち着き、子どもたちは元気に過ごしています。



さて、去年の暮れに「小5男子の体力 過去最低」と新聞等で報道されました。これはスポーツ庁が、毎年小学5年生と中学2年生を対象に実施している「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果です。それぞれの学校で実施した握力や50メートル走、立ち幅跳びなど8種類の実技テストについて、結果を点数化して足したのが「体力合計点」です。その全国平均点が小学5年男子は前年から急激に低下し、過去最低になったのでした。女子は過去最低ではありませんでしたが、やはり前年よりかなり下がりました。そして、残念ながら横浜市は男女ともに全国の平均をさらに下回る結果となりました。

私は長い間、中学校で野球部の顧問をしていました。その中で子どもの体力がそれほど落ちたとは思いませんでしたが、入部してくる段階での子どもたちの投球や打撃の技術は年々落ちていると感じていました。ボール遊びをする場所がない等、気軽に仲間と野球をしなくなったのが原因だと思います。入部してからの中学生は、早くうまくなりたいので、技術的な理論を知りたがります。そうすると、体で動きを覚えるというより、先に頭で動きを覚えることとなります。その通りやろうとすると、なんとなくギクシャクした動きになってしまうことが多いのです。もちろん最終的には技術を身につけていくのですが、時間がかかります。

また、私は英語を教えていました。昨年引退したプロ野球巨人軍の阿部選手が、「アメリカのメジャー・リーグに行ってみたかった。でも英語ができないから行けなかった。」と言っていました。女子プロゴルフの渋野選手は、来年、アメリカツアーに参戦することを表明しましたが、「まず英語を勉強しなくては。」と言っていました。プロのアスリートが、競技のことよりも言語を第一の課題としていることに、英語教師として大きな責任を感じます。高校、大学まで英語を学んでも英語を話せない人が多いのは、日本の英語教育の大きな課題です。来年度より新学習指導要領が全面実施され、小学5・6年生で教科としての英語教育が始まります。言語の習得も理論から入ることなく、自然に身に着けていくことが望ましいと言われていています。運動も英語も小学生のうちから自然にたくさん触れさせ、世界で活躍できる人を育てていけるよう取り組んでいきたいと思っています。

私が子どものころよく見た宇宙人の写真は、手足が細く、頭、目が大きいものでした。（本物かどうかわかりませんが。）やがて人間も運動をしなくなれば、あの宇宙人のようになってしまうのではないかと思うのです。月などの他の星へ移住する計画も研究されています。地球より重力が軽い星へ移住したならば、筋力が落ち、さらにあの宇宙人のようになると思います。そう考えるとあの写真は本物だったのかなあと思います。

自然教室の話？

宇宙人の話？

ゲームやスマホが普及したこと、ボール遊びができる場所が少なくなったことが原因と言われていますが、本当にそうなのでしょうか。調査結果をよく見てみると、小・中学校ともに1日あたりの携帯電話やパソコン等の視聴時間が「1時間未満」と回答した児童・生徒の体力合計点が最も高く、「全く見ない」と回答した児童・生徒より高くなっています。また、私がよく通りかかる公園はとても広いのですが、天気の良い日でもあまりたくさんのお子様を見かけることはありません。これらのことを考えると、一般的に言われているゲームやスマホの普及が原因、ボール遊びができる場所が少なくなったことが原因とは言い切れないのではないのでしょうか。

私が子どものころは、近所の仲間と遊ぶとなると野球でした。今は、遊びにしてもスポーツにしてもいろいろなものがあり、子どもたちの興味が分散していると思うのです。それは、決して悪いことではなく、子どもの視野を広げているのです。私たちに求められるのは、「ゲームやスマホはダメ」ではなく、「使い方を教えること」、「運動しなさい」ではなく、「いろいろなスポーツや運動の楽しさを教えること」ではないのでしょうか。

本校では、今後も子どもたちに様々な「出会い」をさせ、子どもたちの可能性を伸ばしていけるよう教育活動を進めてまいります。

最後になりますが、9月に行われた本校第49回運動会では子どもたちにご声援や多大な拍手をいただき、誠にありがとうございました。引き続き、新橋小学校の教育活動にご支援とご協力を賜り、子どもたちを見守っていただきますようお願い申し上げます。